

第8回 はねどおし 羽根通 A 遺跡 (大笹生) おおざそう (大笹生)

羽根通 A 遺跡は福島市大笹生の、頂上に塩竈神社のある羽根山と八反田川にはさまれた小高い場所にあります。平成12年の発掘調査では縄文土器や石器が数多く見つかりました。また、深く掘られた円形の穴や埋甕が、調査区の東端と西端に集中して見つかりました。埋甕は子供のお墓と考えられることから、この場所は縄文時代後期の終わり頃から晩期の初め頃にかけて（今から約3000前）の集落のはずれに作られた墓地であったと思われます。

平成11年・12年に行われた試掘調査では、遺跡の東側で平安時代の集落がみつかり、羽根通 A 遺跡は縄文時代と平安時代にまたがる遺跡と考えられます。



羽根通 A 遺跡は羽根山の南側を囲むように位置しており、白抜きの部分が調査範囲です。



発掘調査で見つかった縄文時代後期の土器です。

用語解説

掘立柱建物

地面をそのまま床にした土間床あるいは地面より床が高くなる高床式の建物で、柱の根元を掘った穴に埋めて固定することから掘立柱建物とよばれます。

宮畑遺跡の1号掘立柱建物は柱の直径が90cmであり、南東北地方の縄文時代の掘立柱建物としては最大級のものでした。



発掘調査で1号掘立柱建物の柱穴が見つかったところです。人の立っている穴が柱穴です。

埋甕

亡くなった子供を縄文土器におさめて、地中に埋葬した縄文時代の小児墓です。埋葬する時に土器の中に子供をおさめる事によって、再生を願ったものと考えられます。

宮畑遺跡では縄文時代中期～晩期のものが見つかりますが、最も多いのは縄文時代晩期のものです。



宮畑遺跡で見つかった埋甕のなかには、土器の破片や石でふたをしたようなものも見られます。

編集後記

のびのびになっていた「じょーもぴあ宮畑」の部分開放がはじまりました。これからの季節、ここは信夫の里を見渡せる気持ちのいい場所です。散策してみると、縄文時代の人々の暮らしや想いなど、私たちの歴史への好奇心もわいてくることでしょう。校外学習や物作り体験ができる全体オープンまであと2年ほど。案内に携わる私たちは楽しい企画をたてて訪れてくださる方々をおもてなしなくては、と頭をひねって考えています。忙しい現代の憩いの場になったら良いと思います。



じょーもぴあ宮畑

発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人 事務局：福島市教育委員会 文化課
編集：じょーもぴあ・遺跡の案内人 じょーもぴあ宮畑だより編集班
〒960-8601 福島市五老内町3番1号
☎024-535-1111 内線5375・5376

☆「じょーもぴあ」とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

部分開放がはじまりました

じょーもぴあ宮畑は、縄文時代の遺跡である国史跡宮畑遺跡を整備した公園です。平成27年度の全体オープンに向けて現在も整備を進めていますが、平成25年10月6日から公園区域を部分開放しています。

10月6日には、じょーもぴあ宮畑の部分開放のセレモニーやじょーもぴあ宮畑まつりが開催され、約2,000名が会場を訪れました。

開会式では、じょーもぴあ宮畑の部分開放宣言、記念のくす玉割りがおこなわれました。また、宮畑遺跡のある福島工業団地立地企業連絡協議会との友好協定の紹介、友好協定を記念してのリーフレットスタンドの贈呈を行い、地元地区の山口笛太鼓愛好会がアトラクションとして登場し、開会式に華をそえました。

じょーもぴあ宮畑は、縄文時代の復元建物、子供用の遊具、芝生広場のある広々とした公園です。散策やお子様の遊び場として、ぜひご利用下さい。



記念のくす玉割りのようす



地元の山口笛太鼓愛好会の演奏



開会式のあとは縄文物作りが行われました

- 名称 国史跡宮畑遺跡（公園愛称：じょーもぴあ宮畑）
- 所在地 福島市岡島字宮畑地内
- 開放区域 ・縄文時代の復元建物、子供用の遊具、芝生広場、駐車場
※体験学習施設、休憩棟、炊事棟、露出展示棟は開放対象外です。
- 駐車場・トイレの開錠時間 開錠：午前8時30分、施錠：午後5時30分
※園内は上記時間帯以外も入れます。
- 交通手段 ・東北自動車道福島飯坂ICから車で15分
・福島駅東口③番バス乗り場（月の輪行き）向鎌田バス停より徒歩7分



じょーもぴあ宮畑の環境放射線測定値 市ホームページで最新の数値がみられます。http://www.city.fukushima.fukushima.jp/ じょーもぴあ宮畑は平成24年度に除染工事が完了しています。現在の線量 0.14マイクロシーベルト/時間（11月5日） ← 除染工事前の線量 1.52マイクロシーベルト/時間（平成23年9月4日）

平成25年度 じょーもぴあ 宮畑まつり

案内ガイドと縄文物作り



案内ガイドは遺跡のことでなく、園内の植生や地域の歴史など、幅広い説明をしました。



竪穴住居を見学した来園者の方々は、中に入ると広くて快適なのがわかり、「ぜひ泊まってみたい」という人もいました。

じょーもぴあ・遺跡の案内人による案内ガイドは復元された竪穴住居と掘立柱建物、発掘当時のままの状況で縄文土器が見学できる露出展示の3カ所です。

露出展示を見学したみなさんは、出土したままの土器に驚いていたようです。「何年前の土器ですか?」「ほかにもまだ埋まっているんですか?」とたくさんの質問がでました。また、覆屋内では宮畑遺跡で出土した縄文土器を花器に、福島地区華道教授連合会六流派が花を生けました。



見学者は地面から掘り出されたままの土器と陳列された土器を見比べて、遺跡に土器が埋まっていることを実感していました。

昔の手と今の手、宮畑縄文人と現代人のコラボレーションで生け花を通して縄文人の心の表現を感じとり、縄文土器の新しい魅力が生まれました。



上段左から小原流、松風花道会、草月流
下段左から華道家元池坊、龍生派、梶井華道会

子供たちに人気だったのは、勾玉ストラップづくりと掘立柱建物です。掘立柱建物の2階にあがった子供たちは、「高くて気持ちいい」「景色がすごい」とご機嫌でした。

勾玉コーナーは受付前から子供たちがならび、体験サポートを担当したじょーもぴあ・遺跡の案内人も大わらわでした。



用意した200個の勾玉はあっという間に配り終わりました。子供たちは一生懸命勾玉を磨いています。



掘立柱建物は限定で2階部分にあがれたため、子供たちが大にぎわいでした。

草むしりピック

初めての試みだった『草むしりピック』は、30分の制限時間内で草むしりの量、正確さ、きれいさを競う競技です。もちずり地区老人クラブ連合会、岡山地区体育協会、慶河苑町内会、多田建設(株)、福島ふるさと体験交流会、福島市役所選抜の6チームが出場しました。どのチームもあっという間にむしった草の山を積み上げていったのには驚きました。



優勝した多田建設(株)チームは30分間でこれだけの草をむしりました。

縄文土器野焼き&縄文料理

宮畑縄文人養成倶楽部では縄文土器の野焼きを実施しました。当日は霧雨でしたが、講師の菊池逸夫さん(東北歴史博物館)の指導のもと、すべての



土器を焼き上げることができました。また、縄文鍋をつくり、参加者に振る舞いました。調味に使用した塩ももちろん土器で海水を煮詰めて作った物です!

物産販売

福島産の野菜、大波地区の復興祈願品、月輪夏祭実行委員会によるフランクフルトや玉こんにゃくの販売が会場ににぎわいをそえました。



大波地区の復興祈願品の販売。



地元のJA新ふくしま女性部による野菜の販売。

縄リニック

縄リニックは縄文時代や宮畑遺跡にちなんだゲーム大会です。2つの会場にわかれて、丸太ころがし競争、獲物かつぎ競争、じゃんけん競争、スプーン競争と弓矢的あて競争、弓矢一本勝負の6競技が行われました。小雨のなかでも、子供たちは元気いっぱいでした。



獲物かつぎ競争では動物の重さの土のうを2人1組で運びました。



宮畑遺跡の掘立柱建物にちなんだ丸太ころがし競争は2人1組で熱戦が繰り広げられました。



じゃんけん競争は幼稚園以下の子供が参加しました。



弓矢は3本の矢で点数を競う的あて競争と、一本の矢で的に当てる一本勝負の2つの競技です。